

WSAVA Scientific and One Health Committees

Advisory Document

最終更新日：2020年3月20日

新型コロナウイルスと伴侶動物：WSAVAメンバーへのアドバイス

中国で人の肺炎が発生し、世界中で新型コロナウイルス（SARS-Cov-2と命名）が公衆衛生上のリスクになっていると警戒されている。新型コロナウイルスは最初に2019年12月に中国湖北省の省都である武漢において診断された原因不明の肺炎症例が確認された後に見つかった。中国では数万人の感染例が確認されており、旅行者によって多くの国に拡散した。当初はヒト-ヒト感染が成立するという証拠は明確ではなかった。しかしながら、直近数週間で飛沫などを介したSARS-Cov-2のヒト-ヒト感染が確認されている。

2020年1月に世界保健機関(WHO)はこの新型ウイルスを暫定的に2019年新型コロナウイルス(2019-nCov)と命名した。しかし、2月11日にSARS-Cov-2というウイルス名とこのウイルスが起こす病気の名称を'Coronavirus Disease 2019'(略称「COVID-19」)と決定した。日々多くの症例が中国やそのほかの地域で報告されているものの、感染源は特定されていない。現時点では特定の動物がウイルスのレゼルボアになるという証拠はなく、現在更なる研究が進められている。

コロナウイルスはコロナウイルス科に属している。アルファおよびベータコロナウイルスは通常哺乳類に感染し、ガンマおよびデルタコロナウイルスは通常鳥類や魚類に感染する。犬で軽度の下痢を起こす犬コロナウイルスおよび猫伝染性腹膜炎(FIP)の原因となりうる猫コロナウイルスは、いずれもアルファコロナウイルス属である。これらのコロナウイルスは今回の発生には関係がない。ベータコロナウイルスに属するSARS-Cov-2が発見されるまでは、6種類のコロナウイルスしか人に感染し呼吸器症状を引き起こすことが知られていなかった。この中にはSARS(サーズ：重症急性呼吸器症候群)コロナウイルス(2002年～2003年に同定)や中東呼吸器症候群(MERS)コロナウイルス(2012年に同定)が含まれる。SARS-Cov-2はSARSやMERSに遺伝的に近いものの、これらはコウモリ由来のベータコロナウイルスである。COVID-19がSARSやMERSと同じような動きを示すかは分からないが、これらの2種類のコロナウイルスから得られた教訓は役立つだろう。

直近数週間でウイルスの病因論、感染したウイルスの分離、診断方法の開発など様々な進展が見られた。しかし、未だに疑問のまま答えが見つからないことも多い。

最新の情報や人の感染に対するアドバイスは以下のリンクから確認することができる。

・世界保健機関(WHO) <https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019>

・アメリカ疾病予防管理センター(CDC) <https://www.cdc.gov/coronavirus/about/index.html>

動物に関連する最新の情報は以下のリンクから見られる。

・国際獣疫事務局 (OIE) <https://www.oie.int/scientific-expertise/specific-information-and-recommendations/questions-and-answers-on-2019-novel-coronavirus/>

今回の流行に対応するため、WSAVA の Scientific and One Health Committees は世界中のワンヘルスに関わる方の協力をえて WSAVA のメンバー向けに以下の想定質問集を用意した。私たちは中国で伴侶動物が遺棄されているという報道を危惧し、この指針が不安がっている飼い主と対する獣医師に活用してほしいと願っている。

動物病院やそのスタッフをコロナウイルスからどのように守ればよいか？

以下のリンクには新型コロナウイルスのような呼吸器症状からどのように自分たちを守るかについて書かれている。

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/about/prevention-treatment.html>

SARS-CoV2 は伴侶動物に感染するか？

現時点では伴侶動物が SARS-Cov-2 ウイルスに感染するというエビデンスは限定的であり、犬や猫がほかの動物や人が COVID-19 を発症するような感染源となるというエビデンスはない。本件は急激な展開を見せることがあるため、新しい情報が入り次第アップデートされる。

自分自身が COVID-19 にかかった場合、伴侶動物やそのほかの動物との接点を減らすべき？

CDC は以下の推奨を出している。「COVID-19 に感染している場合は、伴侶動物やそのほかの動物との接触を、そのほかの人に対するものと同様に、制限すること。伴侶動物やそのほかの病気が COVID-19 に罹患して症状が出たという報告はないが、COVID-19 の罹患者は伴侶動物への接触を制限するべきである。可能であれば、病気の間は家族の別の人が世話をしてほしい。COVID-19 にかかっている場合は、なでる、くつつく、キスする、なめる、同じ食べ物を食べることも含めて、伴侶動物との直接の接触は可能な限り避けるべきである。病気の間には伴侶動物の世話をする必要や近くにいる必要がある場合は、触る前後に手洗いをしてマスクをつけるなど、よい衛生状態を保つべきである。」最新の情報は CDC のウェブサイトから確認できる。 [www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/faq.html#2019-](https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/faq.html#2019-nCoV-and-animals)

[nCoV-and-animals](https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/faq.html#2019-nCoV-and-animals)

もし伴侶動物が COVID-19 に感染している人と接触した場合、その伴侶動物は他の人に病気を伝搬させるか？

確定はしていないものの、伴侶動物が SARS-Cov-2 に感染するまたは伝搬するというエビデンスは限定的である。また伴侶動物が今回の新型コロナウイルスによって病状を示すかどうか分からない。しかも、伴侶動物や畜産動物が人の新型コロナウイルス感染源と疑われるようなエビデンスは現時点ではない。本件は急激な展開を見せることがあるため、新しい情報が入り次第アップデートされる。

もし自分の伴侶動物が詳細不明の病気になり、自分の周辺に新型コロナウイルスに罹患している人がいる場合はどうすればよいか？

現時点では伴侶動物が SARS-Cov-2 に感染するか、COVID-19 を発症するかどうかは分からない。もし自分の伴侶動物が詳細不明の病気になり、自分の周辺に新型コロナウイルスに罹患している人がいる場合は、その人の対応を行った保健所などの施設に相談してほしい。公衆衛生獣医師や公衆衛生の技官がかかりつけの動物病院に連れていくようアドバイスをした場合、動物病院に事前に連絡をして事前に COVID-19 に感染した人に接触した病気の動物を連れていくことを伝えてほしい。そうすることで動物病院は隔離場所を準備することができる。公衆衛生部門から動物病院に連れて行かないよう要請されている場合はそれに従うこと。

今回の新型コロナウイルスに感染した人と動物が接触をすることで心配することは何か？

SARS-Cov-2 は動物が起源と考えられるものの、現在ではヒト-ヒト感染によって拡大している。ヒト-ヒト感染は主に感染した人の咳や鼻水から出る呼吸器の飛沫が主な感染源と考えられている。現段階ではどの程度ヒト-ヒト感染が容易または安定的に発生しているか分からない。詳しくは以下のページを参照してほしい (<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/about/transmission.html>)。重要なことは、犬や猫などの伴侶動物が新型コロナウイルスに罹患するというデータは現時点では限定的ということである。

現時点では伴侶動物が COVID-19 に対してどのような疫学的な立ち位置にあるかは分からないものの、獣医療に携わるすべての人は、特に感染した人と接触を持つ場合など、厳格な手指消毒をし続けるべきである。

新型コロナウイルスの流行地域にいる動物には何をすればよい？

現時点では伴侶動物やそのほかの動物が SARS-Cov-2 に罹患するというエビデンスは限

定的である。伴侶動物やそのほかの動物が COVID-19 によって症状を示す事例が無かったとしても、さらなる情報が出てくるまでは、飼い主は知らない動物との接点を控え、動物に触る前と後に手洗いを行うこと。飼い主が COVID-19 にかかっている場合は、なでる、くつつく、キスする、なめる、同じ食べ物を食べることも含めて伴侶動物との接触を避けるように努めるべきである。病気の間には伴侶動物の世話をする必要や近くにいる必要がある場合は触る前後に手洗いをしてマスクをつけるべきである。

本件は急激な展開を見せることがあるため、新しい情報が入り次第アップデートされる。

新型コロナウイルスの感染リスクがあるため獣医師は犬コロナウイルスのワクチンに対するワクチンを使用し始めたほうがよいか？

一部の地域で利用可能な犬コロナウイルスのワクチンは消化器症状を起こすコロナウイルスに対する防禦を意図したものであって呼吸器症状を防禦するために認可されていない。獣医師は今般の発生があったため SARS-Cov-2 に対する何らかの防禦を期待してこのようなワクチン接種を行おうと考えるべきではない。現在流通しているワクチンが新型コロナウイルスに対する交叉的な防禦能を示すというエビデンスは全く存在しない。なぜなら消化症状を起こすものと呼吸器症状を起こすものでは型が明確に異なるためである。現在では犬に呼吸器症状を起こすコロナウイルスに対する利用可能なワクチン存在しない (WSAVA Vaccination Guidelines Group より)。

原注：WSAVA は全ての推奨事項は、疫学的なリスクやその軽重があるため全ての国や地域に等しくあてはまるとは考えていない。WSAVA は獣医師同士が密に連絡を取り、各地域の獣医学的権威の意見に従うこと。

WSAVA One Health Committee の活動は Purina Institute によって支えられている。

翻訳：WSAVA Translation Committee Member 安田隼也（獣医師）